

## 北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会（第2回）

令和元年11月19日（水曜日）午前9時58分開会

---

### ○案件

1. 調査、研究の進め方について
  2. 観光資源の選定について
  3. 今後のスケジュールについて
  4. 資料要求について
  5. その他
- 

### ○出席委員（8名）

委員長	田村敏郎	副委員長	川村主税
委員	平松俊一	委員	上野武彦
委員	坂本繁	委員	中川友規
委員	若山雅行	委員	青山金助

---

### ○欠席委員（1名）

委員	神崎和枝
----	------

---

### ○委員外議員（0名）

---

### ○出席説明員（0名）

午前9時58分 開会

**○田村委員長** それでは、おはようございます。開催の前に、まず事務局のほうからパソコンを持ち込む。これは以前にも話ありましたとおり事務の効率化ということで許可いたしましたので、一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、神崎委員が今日欠席の旨の届出ありましたので、これについてもご報告させていただきます。

それでは、早速北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会ということで、これ第2回目になりますけれども開催をしてみたいと思ひます。

実質1回目は役員といひますか、メンバーの委員長、副委員長の選出でとどまったわけでありますけれども、今日第2回目につきましては、進め方、それから観光資源の選定、今後のスケジュール、それから、資料要求等について協議をしてみたいと思ひますので、一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

まず、調査目的、これは北海道新幹線、北海道縦貫自動車道等の利活用、赤松街道や大沼国定公園をはじめとした観光資源の利活用に関する調査研究ということが目的でございます。

七飯町のこれらの観光資源をこれからどういうふうを活用していくか。これは究極的には七飯町の死活問題にも大きく関わってくる問題であろうというふうにおもひます。

したがって、調査研究をしっかりしてみたいということで、一番目の協議事項でありますけれども、調査研究の進め方ということで。私の私案でありますけれども、まず皆様方にお話をさせていただきたいのはですね、観光資源の選定。七飯町はたくさん観光資源ありますけれども、私としては大きく4項目に抑えていきたいというふうにおもひます。

まず1つには、赤松街道についての利活用。それから2つ目は、車両基地の利活用。それから、3点目は、道の駅周辺の振興。それから4点目、大沼国定公園の振興というような大きくくって4点について調査研究を進めていき

い、というふうにおもひしておりますけれども、皆さんにおかれましては、これ以外に何かある。あるいは、私が申しました4項目の中でこれはいらないのではないかとというようなものがあれば、率直に出していただきたい。これについては、これが大事、あれが3番目につくとかという考え方ではなくて、むしろ4項目全て私は同等といへばおかしいですけれども、同じくらいのしっかりとした調査研究をしていかなければならないのかなというふうにおもひますので特に、順番というか、そういうものはつけていかないということで、この4項目について調査研究をしたい。ということで、皆さんにおいては、これ以外、あるいはこれについて、いるいない、忌憚のないまづ意見をいただきたいと思ひますけれども。

平松委員。

**○平松委員** 4項目は結構だと思ひます。私は、5点目に追加をしてもらいたいものが一つあります。それは、交通体系なのですけれども。函館市が今、前の亀田福祉センターの改修工事をしています。あそこがターミナルビルになるのですね。色んな、色んなといへば函バスさんですけれども。そういったものがあそこに集約するので、函館市内の公共交通、特にバスなのですけれども。その見直しを今、進めているのですよ。これに北斗なり、七飯なりが結節していきますので、そういったことも観光に来られる方達にとっては、必要な資源の一つになるかなと思ひますので、今委員長提案の4点プラスこの交通体系というものを色々調べて検討していただきたいなと思ひます。

**○田村委員長** ほかにありますか。それについての意見でも構いません。

若山委員。

**○若山委員** 何といひますか、観光資源という捉え方なのですけれども。普通にいうと、この程度出てくるのかなとは思ひますけれども、場所で捉えるのではなくてですね、リンゴだとかですね、なんとかそういうモノでの観光資源的な配慮というか、そういうものを特産というんではすかね。そういうものをどう捉えるかというこ

とも一度検討してみたらいいのかなというふうに思います。

それと、道の駅というのは観光資源なのかどうかというのがちょっとですね、馴染まないのかなという、観光資源として活用していこうということであればあれですけれども。

特に今回のテーマで、新幹線とか交通体系というところからは出てくるのかなとは思いますが、すけれども、ちょっと観光資源という捉え方はちょっとどうなのかなというのが、若干ちょっとまだ腑に落ちないところはあります。

以上です。

**○田村委員長** ただいま道新のほうから、傍聴の求めがありましたので、許可してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

他にありますか。

中川委員。

**○中川委員** プラスアルファとかそういう話であればちょっと、例えば今若山委員言いましたけれど、色んな場所だけではなくて、歴史的なものだとか、文化的なものというのも含めてというのもあるのですけれど、場所で言ったら城岱もとかあるのですけれど、でも、ちょっと進め方なのですけれど。今色んな意見出し合ってもらって、それを踏まえた上で、逆に次回までもっと話をそれぞれの委員さんで詰めてもらって、出してもらったほうがいいのではないかと思って。

今大きな話。平松委員からは、亀田支所のターミナルになるっていうお話とか何か話が大きくなりすぎちゃっていますので、それぞれあるのであれば、もっとわかるように次回までに自分の中で提案する人が、こうこうだからここがと言えるようにして提案していただいたほうがいいのではないかなと。

**○田村委員長** ほかにありますか。

今、お三方のほうから発言ありましたけれど、私としてはですね、観光資源という部分の中から捉えると、確かに交通体系という部分はわからないわけじゃないですけれども、やはり、その場所に対してどういくかという。端的に言えば、二次的な手段だと僕は理解している

のですよ、交通体系というのはむしろ。だから例えば、車両基地に行くにはどういうコースを通過して、どうやることによって、交流人口が増える、あるいは訪問しやすいような体制を作っていくかという。それに、私はどっちかという、さっき言った4つのエリアに向かって交通体系をどういうふうにかうまく噛み合わせていくことによって、人の動きをより良くしていくのかという、そこら辺の議論は当然していかないとだめだと思うのですけれども、観光資源としての交通体系を項目にということについては、ちょっとこうどうなのかなと。そのものを議論するのではなくて、行くための手段としての、どううまくこうやっていくべきかということを議論。まったく外すという意味ではなくて、当然そういうのは大事になるのだけれども、私はどっちかという二次的な部分の中で議論をすべき項目なのかなというふうにまず思います。

それから、若山委員の特産物の面でのというのは、それはそのとおりだと思いますけれども。なかなかその、地域、地域に合わせた特産物というか。例えば、極端に私のイメージから言えばですね、ガルトネルのブナ林が桜町にあって、道の駅あたりとうまくこうタイアップするんですね、ガルトネル、いわゆる今のドイツでプロシアの、極端に言えばプロシアの料理を道の駅で提供するとか、そういうような色んな考え方ができるという意味からすると、いきなりその特産物の面でやっちゃうというよりも、その地域に応じたやはり考え方の二次的な部分で議論をしていくというか、そのエリアプラス枝葉をつけるということがやはり、特産物であり交通体系であり、それはやはり当然議論すべき話だけれども、まずここの特徴はこういうものがあるから、じゃあこういうものについて、どういうふうな利活用を目指していくのか、というそういう考え方のほうが、僕はむしろいいのかなというような気がしますし、それから中川委員から出たのですけれども、次回という。それも大事なことなのですけれども、とりあえず私としては4か所のエリアを決めなが

ら、できれば私はもう次回は、その4か所の現場を見たいと。実際どういう状況にあるのか。そういう中で、その次の会議については、やはり、関係課長の役場としてのそういうエリアについての振興計画はどういうふうを考えているのか。という、そういうふうなものを探りながら、議会としてどうあるべきなのか、どういう、国だとかに要望、あるいはJRに要望、あるいは開建に要望等々、議会としてできることはどうなのだろうか。というそういう流れの中で、できれば対応すべきではないのかなという、私は考えを持っているのですけれども、皆さんどうなのでしょう。

中川委員。

○中川委員 委員長は、なるべく次のときに現地までやりたいということだと思えるのですけれども、ただ、その意図としては早くやりたいということですよ。

○田村委員長 早くやるというよりも、3月を私は1つの区切りというか、どっちにしても、3月までに中間報告を出すのであれば、それまでに現状と今何が問題なのかという。最低でもそこら辺は、特別委員会で押さえておかなければ、中間報告はなかなか難しいだろうということで、急ぐといえば急ぐのだけれども。

○中川委員 3月を、中間報告を目標で行くということ...

○田村委員長 現状と課題というのを洗い出しておきたいと。

○中川委員 であれば、それは良いと思うのですよ。ただ、今のこの出だしは、次回に現地調査じゃなくて、今委員長色々、色々な案を言いましたよね。ガルトネルだとか色々なことを。その辺を含めて次回までに皆さんから色々な意見を出していただいて、次回にどこに現地行くとか、何を見るときか、どういう現状になっているとか。例えば大沼であれば、大沼のどこを中心に見るのか。それも観光が来るような日に行くのか、ただの平日に行くのか、とかその辺も含めて、次回それを詰めて。これ常任委員会と違って回数は関係ないので、3月に間に合うように、ちょっと回数は増えちゃいますけど。そ

ういうふうにやっていったほうが、いいのかなと。調査に行くに当たっても、やっぱりもう少し各委員さんたちの思いというか、それぞれがこの町でどういうものがあるというのをちゃんと出していただいて、というふうにしてやったほうがより詰まっていくのかなと思います。

○田村委員長 皆さんどうでしょうか。

上野委員。

○上野委員 今回、七飯町の観光資源としてどういう問題があるのかということで、取り組もうということなのですけれども。一つは、七飯町の今の観光といいますか、観光の現状、課題それがどういう状況になっているのかということ、まず踏まえた上で、具体的なテーマ、課題を整理して取り組んだほうが良いかなというふうの一つは思うのですよ。

そういった点でいえば、今の七飯町の観光の現状というものを数値的なものを含めて、例えば、町の観光課なんかのデータ、資料を提出してもらってね、何が今問題になっているのか、現状はどうなのか、そういった把握をした上で今後の課題としては何が求められているのか。

ということ委員会として、検討して課題を整理していくというふうに進めるほうがいいのではないかと。一つは思うので。一つはそういうその七飯町の現状、これを数値的なもの、例えばここ5年なり10年の間に観光の状況がどう変わってきているのか、今はどうなのか。道の駅の開業によって、その効果がどう上がったのか、なかったのか。そういった数値的なものをまず背景として押さえた上で、今後のそういった取組の課題を明確にして取り組む必要があるのではないかと。そういうふう思うので、中川委員の言ったように再度、今日これ初めてどういうことで取り組むかという課題が提起されているわけですが、各委員が改めてそういった課題整理をした上できちっと議論をしたほうがいいのではないかと。私も中川委員の言うように、次回にもう少し詰めた議論をする機会を持ったほうがいいのではないかと、そういうふうには私そう思いました。

○田村委員長 上野委員の今詰めた議論という

話とそれから数値に基づく議論という話が出ましたけれど、これについて具体的な資料要求みたいのはあります。

上野委員。

○上野委員 それについては、例えば、入込数だとか、それから実際の効果というか、それを数値で何か入込数だけではなくて、例えば売上の金額だとか。何か測る数値的なものが町の観光課で押さえているものがあれば、それをきちっと数値で出してもらって、そこにその数値の変化にどういう傾向があって、問題点はどこにあるのかというね、そういうことも含めて観光課のほうできちっと今までのそういった状況を報告してもらおうということをまず最初にやるべきことではないかなと、そういうふうに思って提案しましたけれど。

○田村委員長 ほかにありますか。

平松委員。

○平松委員 上野委員の発言に上乘せするような話になりますけれど。私は、先ほどは交通体系をきちんと調べるべきだと言ったのと同じ趣旨になります。例えば、七飯町で持っているデータというのは大沼に人がどのくらい降り立ったかとか、道の駅にどのくらいの人、車が来たかというデータは、多分出ると思うのですけれど。例えば道南に来た、もしくは函館に来た人たちが七飯をどのくらい通過しているか、となるとなかなか七飯町ではデータを持っていないと思うのですよね。だからその辺、七飯に関連するデータというのがどのくらい、例えば函館の商工会議所が七飯方向から来る人がこのくらいいるだとかというデータとかもし持っているのだったら、そういうものも集められれば。動向がわからないことには七飯に来た人間だけでどうのこうのとその判断するのはなかなか難しいと思うのですよね。極端に言うと、湯の川に泊まって札幌に向かう途中にちょっと大沼に寄ってボートに乗ったとか、自転車に乗ったとかで通り過ぎる人が多いはずなのですけれど。全体の流れの中で七飯町に必要な議論をしていくというベースがやっぱりあってもいいのかなと思いますけれど。どの程度

調べれるのかちょっとわからないですけど。七飯だけの数字よりは、少し周りの数字も調べられるものがあつたら調べてもらいたいなと思いますけれど。

○田村委員長 ほかにありますか。

若山委員。

○若山委員 今の先ほどの上野委員の意見を聞いて、確かにそうだなというふうに思うところが多いので。まず、この観光ということに関してですね、一番情報、データを持っていると思われる観光の担当の方にお話を聞くというか、大したデータは出てこないのかもしれないけれども。どのような問題点と、どういうテーマをもって今やっているかというところを出してもらって、それを踏まえた上で、我々の委員会の話を進めていく必要があるかなと思いますし。この一番初めに出ている北海道新幹線等交通体系とありますけれど、そのスケジュールだとか状況だとか、そういうものについてもじっくり事前にこういう状況にあるというデータを出してもらってですね、そこから話をしてもらって、実際に見に行く必要は当然あると思いますけれど。それはまた後でもいいのかなという感じはするのですけれど。事前にデータをまず集めるというか、なければならぬ構わないと思うのですけれど、そこからやる必要があるというふうに思いました。

○田村委員長 ほかに。

坂本委員。

○坂本委員 今それぞれ4人の委員から出されたのですけれども、まさに大事にことでありますけれども。最初、調査目的の関係で委員長が4つを出されたのですけれども、今回この次にこの辺を研修してくると思うのですけれども。やはり、上野委員も、若山委員も、中川委員も、平松委員も、これから具体的に入っていくときにやっぱりそういう方向は大事だと思うのですけれども、この調査目的にあるとおり、縦貫自動車道、赤松、大沼、こういうものを一回きちっと、我々そばにいてもなかなかその辺をきちっとこういう目的で視察するということがないので、一回この4か所をきちっと見てきて、

先ほど上野委員がおっしゃったとおり観光課長を呼んで現状こういう方向で今後5年なり3年、どういう方向で七飯の観光を考えている。そういうことを聞きながら、またそれに対する平松委員がおっしゃったとおり、書類をそれに提供してもらって、それを具体的にどうこなしていくかということ。私としては、さっき委員長がおっしゃったとおりこの次は、その中川委員は急ぐような話をしたけどさ、急ぐというそういうことではなくて、一応この4か所研修して、それを見てきた中でもって、次にどういう方向で中身を検証するかということ。いったほうが私としては良いのではないかと思うのですけど。今それぞれこの4つについて、平松委員は交通体系のことについて、これは5項目になるのですけれども。そういう方向でいって、中身に入ったほうが、一応、操車場なり、道の駅なり、大沼なり、赤松。我々その辺をきちっと見た中で課長がどのように、今の観光課長が捉えているか。今後どういう方向で七飯の観光振興をするということ。いったほうがいいのではないかと思うのですけども。私はそう思います。

**○田村委員長** ほかにありませんか。

青山委員。

**○青山委員** 各委員から様々意見出ました。お話を伺っているとそのとおりだなというところもあります。今、スタートですよ、特別委員会として。通常の常任委員会と別の、特別という付いているそういう委員会ですので、そういう意味では、さっき中川委員も言っていましたけれど、回数に制限がないので、積極的にどんどんやっていくということで、各委員から色々な意見をもらって、とにかくその中でこの委員会で諮っていければいいかなと思うのですけれども、各委員からいっぱい出ていますので。今回この資料の調査目的とあるとおり、ここにまず則っていくということ。よろしいのではないかと思います。以上です。

**○田村委員長** ほかにありませんか。何でも。おそらく、私だけかもしれませんが、この特別委員会、非常に捉えにくいというか、正

直なところ、おそらく私は各論から入りながら、全体像を掴みたいという気持ちと、皆さんの意見を聞くと、総論から入りながら数値だとか見ながら各論にやっていくという。結果的には、どっちに向かっても同じだろうと思うのだけれども。非常にこの特別委員会のテーマに向かっただけ進むというのは、進みづらいものじゃないのかなど。捉えようがないというのかね。先ほども出たように、地域じゃなくて特産品の面からいくというのも、これもまた面白い。私は正直言ってあれではないかと思うのだけれども。今、青山委員が言われたように、調査目的というのは、赤松街道や大沼国定公園をはじめとした観光資源というのは、一定程度ある程度一般通常で言う面の中で、あと特産品だとか、さっき言ったように交通体系だとかというのは、それに付随した重要な項目ですけれども、それを主に議論するというよりも、私はむしろ先ほど言ったような中で、議論の中でそういうものもひっくるめた中で議論をして、総合的な考え方を議会として押さえるべきでないのかなという気持ちは持っています。上野委員のほうから言われましたけれど、入込数だとか、効果、売上、そういう数字。数字的なものというのは確かに重要な話ですけれども。実際、そういうものがですね、観光資源に直接関わるかということ、結果としては出てくるけれども、観光資源の利活用に売上を見て、どういうふうに反映させていくかというのは、僕はなかなか想像できないというか。難しい側面、全体的な総論を語る分においては、右肩上がりだよとか、あるいは、ちょっとこう落ち込んでいるねとかという、そういう議論はできるかもしれませんが、今回の調査特別委員会の観光資源の利活用に関する調査という話になっちゃうと、もっと具体的に観光資源を切り込んでいかない限り、なかなか展望が見えてこないテーマではないかなというふうに私は感じているのですけれども。そこら辺でもう少し皆さんの議論をですね、考え方をお聞きしたいなとは思っていますけれども。

平松委員。

○平松委員 例えば、来年はオリンピックがある。札幌にマラソンが来るということで、北海道に今まで以上の流入が見込まれるわけですよ。そういうものを前提に話すということも確かに一つでしょうし。例えば、ずっと先の話になりますけれど、札幌まで新幹線が延伸になったときのこともある程度勉強しながら話を進めるということも必要だと思います。先週ですね、ちょっと私いさりび鉄道に乗りましてね、五稜郭から木古内まで行きました。10時何分か列車に乗って、11時半ころ着いたのですが、45分経ったらその列車が戻ったあと、3時間くらい函館に向かう列車が無いのですよ。木古内の道の駅は、車で来る方たちにとっては非常に何か行きやすいところでね、あれだったのですけれど。列車使うとなると、よっぽどの何かイベント張らないと人が来ないというような利用状況で、こういうこともあります。何が言いたいかっていったら、結局は、動きやすい環境を用意しておけば、色んな人たちが流れてくるというのは、私は最初に来ると思うので交通体系の話をしました。それと、先ほど言いましたオリンピックだ、そういうものに対応するためにどこに問題があるのか。例えば赤松街道を見てもらうためには、どこに車を止めて、どうやったら一番良いポジションで見れるとか。そういう細かい話まで進まなければだめですけれど。先ほどの話に戻りますが、全体がどう動いてて、七飯町にどういうふうに寄ってもらうのか、寄ってもらえない理由は何なのかということ調べていく必要が最初にあると思います。だから、入込数だとかそういうのとちょっと話が似るかもしれませんが、全体の流れの中で七飯町が滞在時間が短い問題点というのを各ポジション、ポジションで探っていくという方向性が必要かなと思います。それと、くどいようですけれど、人の流れをどう受け止めるかというのは、来年とまた、長期とは少し違いますのでね。当面、来年に向けて、例えば、翻訳機をもっと増やすとか、具体的な話をもっと出すのも一つでしょうし、十年後新幹線が開通したときのこともある程度勉強し

ておくということも同時並行していったいいんじゃないのかなと思います。

○田村委員長 ほかに。

中川委員。

○中川委員 やっぱり、この委員会の進め方自体、田村委員長が言うような進め方と、先ほど上野委員が言ったようなとかの話もありましたけれど、やっぱり委員会として、まず町の現状はどうなっているのだというのは、最低出た上からスタートしないと。委員会でそれを出さないままスタートというのも、ちょっと、ついでのもあるので。それが出た後に、さっき委員長言ったようなことをいけば、逆に色んな話ができるんじゃないかなと。やっぱり町の今の現状というか、新幹線開業だ何だかここ数年あった中で、今回のこの委員会では、データがないまま進めていくよりは、やっぱり過去と、過去から今の、現状のデータというのをちゃんと出して、もしくは課題。赤松街道だとか、どうだつてなっているけれども、観光地になり切れていないとか。うまくいっているのかもしれないですけれど、そういうのも含めて一回ちゃんと出してもらって、そこを、じゃあ、よりもっと人来てにはどういうことができるんだという方向で進めていったほうがいいのではないかなと。だから、手間はかかるんですけども、回数は増えますけれど、まず次回その辺を。逆にこういうのを聞いたほうがいいのかというものを提案してもらって、吸い上げたほうが。それで、じゃあ赤松街道にはこういうのを、という何か意識ができますよね、課題だ、何だつていうのができたら。ただ見るだけであれば、今の状態で行ったら、ただ現地見ちゃうから。それは普段皆さん、赤松街道通っているのと、大沼公園見に行くのと、あまり変わらないと思うのですよ。今の状態で行ってしまえば。だから、そうではなくて、現状だとか、例えば赤松街道の歴史だとか、こういうのがあってできたのだというのを全員意思統一できた中で見に行くのと、また、大沼公園も、何がいいのかわからないけれど、公園法の絡みだとか、色んなこともちょっとみんな意思統一した中で見に行くのと、

こういうことできるんじゃないかとか、こういうのはちょっと国だ、道だとかにお願いしなきゃないとかということも見えてきた上で行ったほうが委員会としては良いと思うのですけれど。

**○田村委員長** ちょっと暫時休憩します。

午前10時35分 休憩

---

午前11時09分 再開

**○田村委員長** それでは、暫時休憩終了いたしまして、会議を再開いたします。

色々意見が出ましたけれども、まず端的に言いまして、観光資源、これにつきましては、赤松街道についての利活用、車両基地の活用、道の駅周辺の振興、大沼国定公園の振興、この4項目プラス城岱についても観光資源の選定の項目の中に入れるというようなことで進めたいと思います。

なお、この5項目につきましてですね、次回までに各課からそれぞれの資料を要求したいと思います。まず、赤松街道、車両基地、道の駅周辺、それから大沼国定公園。これなんかは、入込数だとか、効果だとか、売上だとか、数値に現れるものについては、それぞれ資料を要求したいと。それから、城岱についても入込数というのかな、その部分についても、もしわかればお願いしたいと。それから新幹線の状況というか、その資料。それから、縦貫自動車道のわかる範囲での資料。それから、町村会、渡島期成会等の開建に対する、あるいは国交省に対する要望書の内容がわかるものがあれば、それも併せて資料を要求したいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今ので、何か。

上野委員。

**○上野委員** 先ほどの漏れているのですけれど。それは具体的に中身に入った話でね。町の今の観光の現状把握というか、課題はどう考えているのかというあたりの町の観光課としての今の七飯町の観光に対する現状把握。これはきちんと観光課に資料も出して説明をいただくと

いうことは必要ではないかと思ひますので、それをまず入れていただきたいということと、先ほども出ていましたけれど、高速道路の関係について、具体的に開発のほうで今どういう計画になっていて、今後のスケジュール的な中に道の駅エリアがどう関与するか。その辺については、町は要望しています、要望しますとは言っていましたけれど、実際にそれが反映されているのかどうか、それについてもきちっと聞いておくべきではないかと思ひますよね。その辺についてちょっとお願ひします。

**○田村委員長** これについて、皆さん方の意見をちょっとお聞かせ願ひしたいのですけれど。先ほど資料要求縷々言いましたけれども、これについては、中川委員のほうから、要は資料を見た中で共通の問題意識を持つのだと。その上で、現地を見るという話の中からはすればですね、資料要求と同時に説明を求めるのか、先ほど私が言ったように資料要求の資料を見た中で共通意識を持って、現地を見た上で、それぞれの担当課長のほうから改めて、日にちを設定して説明を受けていくのか。私は、資料要求と同時に次回観光課長の説明云々というよりも、むしろ問題を、共通問題をきちっと持った中で、現地を見て、そしてそれぞれ町の課長のほうから観光の振興策、あるいは赤松街道であれば、電柱の地中化っていうのかな。そういう話が出れば、それなりの土木であるとか、いろんな課長のほうから説明を改めてもらったほうがいいのか、その辺皆さんどうでしょうか。次回、一緒に説明もらったほうがいいですかね。そうしたら観光課長だけでいいの。そうはいかなくなるのじゃない。だから、そういう項目が出てこない限り、どこの課長がどういうふうに関連してくるかというのが、この次やるやる言っても、なかなかそれは見えてこないんじゃないかな。

中川委員。

**○中川委員** これ、まず資料要求した時点で、各関係課で用意しますよね。車両基地なら政策になるのかな。用意したものに対しての説明は多分各関係課。商工とか政策とか、商工と政策



だけか。課はまたぎますけれど。それは用意できているということは説明できると思うので。問題ないのかなど。

○田村委員長 そうすると。ちょっと私見えな  
いのだけだ。

(「暫時休憩」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 暫時休憩します。

午前11時10分 休憩

午前11時18分 再開

○田村委員長 休憩前に引き続いて再開いたします。

そうしますと、今回は先ほど言った資料要求  
プラス観光課長と、それから学芸員、政策、そ  
の3名。経済部長もか、当然流れるには。そう  
いう5項目に関連した関係課長の出席を求め  
て、資料要求プラス説明を受けるということで  
よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 じゃあそういうことで。

副委員長。

○川村副委員長 あと、資料要求でちょっと追  
加というか。さっき平松委員の言っていたのと  
絡むのですけれど、高速の滝川とか、あともう  
一箇所砂川だったかな。インターから道の駅に  
2箇所…。こないだ経済の視察でも見たのだけ  
れども。確か2箇所だったと思うのだけだよね。  
ちょっと他にあるのかわからないのだけれど、  
当時どういう形でやっているのか。例えば開建  
が全部持ち出しでやっているのか。何かその  
辺、何か出ないかな。どういう形でやっている  
ものなのか。

○田村委員長 それはどこだ。都市計画かい。  
どこでやっているのか。

(発言する者あり)

○田村委員長 じゃあ、状況に応じてまた随時  
説明やら資料要求していくということでよろし  
いですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 そうしましたら、次回についま  
しては、資料要求だとか、説明員の日程等あり  
ますので、私と副委員長と事務局で詰めて、ま

た改めて日にちお知らせいたしますので、一つ  
よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは今日の…。

若山委員。

○若山委員 ここに書いてある3番目の今後の  
スケジュールについてということで、今日は特  
にそのスケジュール感は何にもあれだというこ  
とでよろしいですかね。打ち合わせの結果とし  
て色々出てきましたよね。3月までとか、来年  
のあれまでとか。2年…。

○田村委員長 スケジュールについては、私た  
ちは2年間だということと、来年の3月まで出  
来れば一つの問題点だとか、そういうものを、  
掘り起こしをして、そして来年の4月以降、陳  
情活動できるものについては、積極的にしてい  
くということで2年間を終わりたい。というこ  
とで、陳情来年なのだけれども、来年の3月ま  
ではこういう観光資源の課題の掘り起こしを  
きちっとしていくと。回数については、随時必  
要に応じて開催をしていくということで理解を  
していただきたいと思ひます。

(「わかりました」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 ほかにありませんか。もしなけ  
れば今日の会議これで閉じたいと思ひます。

どうもご苦勞様でした。

午前11時36分 閉会

